

国連NGO横浜国際人権センター・うずしおブランチ T-over人権教育研究所・人権こども塾 ニュース

Q. 中学生当時、「全体学習 (みんなで語り合う人権学習)」をどう感じていたか?

「最初は、正直とても気が重く嫌で嫌でたまらない時間でした。後ろ指を指されているようで、ひそひそ笑われているようで…。

私は、全体学習の中で泣いてしまったことがあります。発言をしようと起立した瞬間に何とも言えない感情に襲われてしまいました。その感情とは、真っ暗な闇を感じ、未来に対する希望が失われていく感じと、「今は先生たちに守られている」という安心感が無くなってしまう感じと、中学を卒業したらどれだけの同級生たちが背を向けていくのだろうという不安感です。14歳の私には、この感情をどう整理していけばいいのかわかりませんでした。授業を重ねていたにも関わらず。恥ずかしい限りです。言葉には結局ならなかったと思います。

その後、全体学習を重ねていくうちに友達の考えていることや思っていることをたくさん聞くことができました。学年全体に「絆」のようなものが生まれてきたと思います。

そして、授業を重ねるにつれ、段々と涙も流さなくなってきたように思います。それは、部落問題を真剣に語り合える仲間、そして先生方がいるという信頼関係が築けたからだと思います。」

Q. 十数年経った今、どう思っているか?

「全体学習のおかげで今日の私があります。それは断言できます。

この全体学習がなかったら私は今頃、就職も結婚も諦めていたと思います。自分を強くしてくれたのは、何度も何度も意見をぶつけ合って討論してきた仲間と、ずっと見守っていただいた先生方です。卒業してからも全体学習に費やした時間、仲間、先生方はずっと私の宝物です。

差別に直面することは度々ありましたが、全体学習を体験してきたおかげで、私は逃げずに真正面からぶつかることができました。一人で直面するのはとても怖かったです。今でも怖いです。でも全体学習のおかげで相談できる仲間ができて、一人じゃないんだと幾度、心強く感じたことがあったかしれません。本当に感謝しています。

全体学習という機会をたくさん設けていただいて。あれほど嫌でたまらなかった全体学習の時間が、今や私の人生になくってはならない時間になっていたとは…。卒業して社会に出てから本当に大切な時間だったなあとよく思います。

そして、私みたいに弱い人間でも、全体学習によっていつのまにか強くなれていたように、たくさんの人たちが差別に向き合える力、乗り越えられる力を、全体学習を通じて培ってしてもらえればと思います。」

出会った限りは一生もの。

中学校とは、1年間だけの、3年間だけの出会いかもしれません。

でも、そうじゃない。

出会った限りは一生もの。

いつかはひとり立ちして巣立っていくものだけど、

でも、いざというとき、いざというときには、

必ず舞い戻れる。

そんな場所を、「絆」を、

子どもたちの中につくっておきたかったのです。

みんなで本心を語り合う時間が、それをつくってくれました。

本気の人権学習は、——「すべてを変える」



うずしおブランチ代表